

平成30年度
都市整備常任委員会視察報告
永井真人

平成30年10月31日（水）～11月2日（金）

目次

1 「サイクリングポートみなとオアシス尾道・みなとオアシス瀬戸田について」	2
1) みなとオアシスについて	2
【概要】	2
2) サイクリングポートみなとオアシス尾道について	3
【概要】	3
【施設の概要】	4
【ONOMICHI U2】	4
【東御所緑地】	5
【しまなみ交流館】	5
3) 所感等	5
2 道路不具合通報アプリ「パ撮ローズ」について	6
1) パ撮ローズの概要について	6
【概要】	6
【通報の内容について】	6
【通報の流れについて】	6
【通報の状況について】	7
【アプリ開発事業者について】	8
【事業経費について】	8
2) 土木常設員について	8
3) 所感等	8
3 ヴィッセル神戸練習場いぶきの森球技場について	9
1) いぶきの森球技場について	9
【概要】	9
【練習場を整備した経緯について】	9
【練習場整備費用について】	10
【維持管理経費について】	10
【随意契約の理由について】	10
【地域との交流について】	11
【市民の利用について】	11
2) 所感等	11

1 「サイクリングポートみなとオアシス尾道・みなとオアシス瀬戸田について」

10月31日（水）尾道市

1) みなとオアシスについて

【概要】

みなとオアシス制度は、平成15年度に中国・四国地方整備局が制度創設し、平成29年2月1日より国土交通省港湾局長登録へ移行した制度であり、全国では93箇所（平成29年2月16日現在）の登録がされている。

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいう。今後、災害発生時における防災拠点や、外航クルーズ客に多様なサービスを提供する場としても、「みなとオアシス」の活用を図るとされている。

みなとオアシスの概要

<p>「みなとオアシス」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいう。 ■今後、災害発生時における防災拠点や、外航クルーズ客に多様なサービスを提供する場としても、「みなとオアシス」の活用を図る。 	<p>機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域住民、観光客、クルーズ旅客等が交流及び休憩できる機能を有していること ■地域の観光及び交通に関する情報の提供機能を有していること ■その他、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するために必要な機能を有していること
<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ■みなとオアシス制度 平成15年度に中国・四国地方整備局が制度創設 平成29年2月1日より国土交通省港湾局長登録へ移行 ■オアシス数 全国では 本登録：93 中国管内 本登録：16（平成29年2月16日現在） ■中国みなとオアシス協議会事務局 中国地方整備局 港湾空港部 	<p>支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■みなとオアシスのシンボルマークの使用 ■国土交通省・地方整備局等のホームページ等による広報 ■道路地図への掲載や道路標識の設置の支援 ■その他みなとの振興に関する各種支援



シンボルマーク



道路標識設置の事例



全国のみなとオアシス
(平成29年2月16日現在)

93箇所



みなとオアシスのイメージ

2) サイクリングポートみなとオアシス尾道について

【概要】

尾道糸崎港は瀬戸内海のほぼ中央に位置し、東西に約19kmと細長く広がる港湾区域を有している。三原市、尾道市、福山市の3市を背後地として、古くから広島県備後地域と四国及び周辺島嶼とを結ぶ海上交通の要所として栄えてきた。平成11年5月には本州と四国とを結ぶしまなみ海道が開通し、みなとまち尾道は、市の中心部へ訪れる市民、観光客、しまなみ海道サイクリング利用者が行き交う地域となっている。



サイクリングポートみなとオアシス尾道では、西御所港倉庫を観光交流拠点として、商業・サービス機能、イベント機能を付加して賑わいの創出を図っている。尾道糸崎港西御所地区に全国初のサイクリスト向けの複合施設としてオープンした「[ONOMICHI U2 \(オノミチ ユーツー\)](#)」は、民間活力の活用により、既存の県営2号上屋を再生したもので、みなとオアシス主催のイベントも定期的に行い、市民と来訪者が憩い集う活気あるみなとまちづくりに取り組んでいる。



【施設の概要】

施設の概要としては以下の通りである。

運営団体	尾道観光協会
設置者	尾道市
登録	平成22年3月21日
港湾管理者	広島県
主な港湾施設等	ONOMICHI U2、ポートターミナル、しまなみ交流館、東御所緑地



【ONOMICHI U2】

既存の県営2号上屋を再生したもので、上屋内には約2千平方メートルの空間にサイクリスト向けホテル（自転車で乗り付けてチェックインし、そのまま客室に自転車を持ち込める形態）や自転車メーカー専門店、レストラン、バー、カフェ、ベーカリー、ライフスタイルショップ、イベントスペース等が併設されている。



【東御所緑地】

尾道駅を出てすぐの尾道水道に面する東御所緑地には、海沿いに遊歩道が整備されている。県の事業によってボードウォークが設置されており、尾道大橋や新尾道大橋、対岸の向島などを望むことができる。

【しまなみ交流館】

690席のホールを中心とした広域交流施設。1999年、尾道市と愛媛県今治市に西瀬戸自動車道、通称「しまなみ海道」が開通した年に広島県の玄関口として、また、駅前再開発の一環として建設された芸術・文化の振興及び交流を図る施設である。

開館時間： 9:00～17:00

休館日： 火曜



3) 所感等

国土交通省が所管しているみなとオアシスの枠組みに沿った整備事業をうまく活用して、尾道市が以前から力を入れてきたサイクリング観光を組み合わせる街の活性化に上手に繋げている印象を持った。特にONOMICHI U2についてはサイクリストに特化した施設となっているが、それがおしゃれな雰囲気につながり、ショップやレストランには家族づれやカップル、女性客などの客層を呼び込む魅力を持った施設になっている。県営2号上屋の扉の部分ガラス張りにして港を臨みながら飲食が楽しめるスペースを実現している。港側には海を見ながらくつろげるスペースが整備されており、リフォームの制限の範囲で海辺のロケーションを最大限活かした作りになっていると感じた。本市の地産地消拠点も海辺に位置しており、そのロケーションを最大限活かしたスペースにする必要がある。

ONOMICHI U2は、ホテル、ショップ、シャワー棟などサイクリストが必要とする施設を集めたことでコンセプトが明確な施設となっている。本市でも、新たな交流拠点を整備する際にそのコンセプトを明確に打ち出すことが重要であると思う。



2 道路不具合通報アプリ「パ撮ローズ」について

11月1日（木）福山市

1) パ撮ローズの概要について

【概要】

パ撮ローズとは、市道などの道路利用者が、市道上における舗装の損傷や上下水道の漏水、マンホール蓋の不具合などを発見した際に、自身のスマートフォンから現場写真と位置情報を併せて市へ通報できるアプリである。このアプリは、2018年4月20日より運用を開始している。

【通報の内容について】

通報については自由記入欄はなく、あらかじめ設定された不具合項目より選択する。設定された項目は以下の表の通りである。



道路	上下水道
陥没・穴ぼこがある	道路舗装の割れ目等から水が出ている
ガードレール・柵が壊れている	水道管から水が出ている
カーブミラーが壊れている	マンホールから水が出ている
道路を横断する水路蓋が壊れている	
倒木があり通れない	
落石がある	
マンホールががたついている	

【通報の流れについて】

- ①アプリをインストール後、メールアドレス、ユーザー名を登録。
- ②アプリを通じて通報か、緊急を要する場合は電話で通報。アプリ内に関係部署の連絡先一覧が掲載されており、平日の業務時間外や、休日で緊急を要する場合は、電話にて通報をしてもらう。
- ③通報内容を選択する。

④現場写真の撮影。損傷状況がわかる近景写真と、周囲の風景を含めた遠景写真を、それぞれ1枚ずつ撮影する。現場で撮影した写真をその場で添付することも、既に撮っていた写真を添付することも可能。

⑤該当場所を選択する。GPS機能をONにしている場合は、『現在地を取得』をタップすることで、ピンが自動的に現在地周辺に移動する。ピンの微調整もできる。また、住所検索により該当の場所を地図上に表示させることもできる。

⑥送信内容の確認をし、『レポートを送信』をタップすると通報内容を市へ送ることができる。

【通報の状況について】

10月30日時点での通報と対応状況は以下の通りである。

通報状況	
陥没・穴ぼこがある	396件
ガードレール・柵が壊れている	20件
倒木があり通れない	17件
カーブミラーが壊れている	14件
落石がある	10件
道路舗装の割れ目等から水が出ている	10件
道路を横断する水路蓋が壊れている	9件
マンホールががたついている	7件
マンホールから水が出ている	4件
水道管から水が出ている	1件
計	488件

対応状況	
処理済	449件
対応中	26件
未処理	13件

【アプリ開発事業者について】

株式会社アーバングラフィック（相模原市）に委託。同社は相模原市道路通報アプリ「パッ！撮るん」や松本市道路損傷等通報アプリ「なおして！アルプちゃん」など、数多くの同種の道路損傷等通報アプリを手がけている会社である。

【事業経費について】

相模原市が株式会社アーバングラフィックに委託して開発したアプリをカスタマイズしたもので、導入経費は約182万円、サーバー利用料・アップデート・不具合改善経費などで年間約220万円かかるとのこと。

2) 土木常設員について

福山市では、道路や河川、水路などの適正な維持管理のため、地域住民と市との連絡・調整を図る土木常設員（280名）を市内全域に联合会等の長の推薦に基づき委嘱している。

土木事業に関する要望については、地域住民の総意となるよう土木常設員と連携を図る中で対応することとしており、要望などがある場合は、各地域の担当土木常設員に相談する流れになっている。

アプリによる通報、あるいは電話による通報において、対応が単純な作業にとどまらない内容の場合は地域の土木常設員と協議のうえ解決する流れとなる。

3) 所感等

アプリを使って手軽に市道の不具合を通報できるシステムは、より多くの人の目で市道管理を遂行することができる、いわば社会資源を有効に活用した取り組みとして注目に値する。担当課に入った情報は業務時間外に届いたものについては、始業時にまとめて確認し、業務時間内に届いたものについては「パトランプ」が鳴動し、担当者が即座に確認するという対応が行われている。道路に関する要望については、不具合のようにすぐに直せば対応完了のものから、地元の色々な状況による対応が必要なものに至るまで様々であるが、このアプリはそのうちのすぐに直せば対応できる不具合に的を絞っている。自由記入欄があると、逆に対応が煩雑になってしまい、相手先がユーザー名しかわからないアプリ経由だと様々な不都合に繋がる恐れがあるため、対応の種類を10種類に絞ったのは懸命な選択であると思う。登録者数が10月30日時点で885人で、現在はほぼ横ばいの状況とのことで、今後はいかに登録者数を増やしていくかが課題である。

福山市の土木管理課では、年に5回の一斉パトロールを行なっている。1回のパトロールで200～300件の対応がなされており、年間1000件近くの補修を行なってきた。今回のアプリ導入は導入費用182万円と年間経費220万円がかかるが、このアプリ導入によって、年間5回の一斉パトロールの回数が1回でも減らすことができれば、アプリ導入の効果が目に見える形で現れたと言える。4月20日に導入して10月30日時点で通報件数488件（対応済449件）は、見た限りではかなりの効果があがっていると思われるが、今年は豪雨災害をはじめとした自然災害が多い年なので、その辺りを加味した評価をしなければならない。この辺りがきちんと評価するにはまだ時間がかかるだろう。本市で導入を検討する場合は、こうした経費を出すだけの効果が出るかどうかの評価が重要であると思われる。

市道通報アプリは相模原市をはじめ、他都市でも取り組みが行われているが、福山市の事業はそのネーミングとデザインにおいて群を抜いている。この点は一般市民を対象とする場合非常に重要であり、登録者数を増やすための大前提となる。

3 いぶきの森球技場について

11月2日（金）神戸市

1) いぶきの森球技場について

【概要】

いぶきの森球技場の概要については以下の通りである。設計については、天然芝2面については、市で公式な仕様に基づき整備。人工芝1面とクラブハウスについては、ノウハウの活用・費用逓減・整備後の管理運営の面から（株）クリムゾンフットボールクラブへ委託した。



球技場の概要		
土地	天然芝グラウンド2面 人工芝グラウンド1面 クラブハウス 駐車場等	53,317㎡
建物	クラブハウス（軽量鉄骨造 2階建）	1,331㎡
	市民利用クラブハウス（軽 量鉄骨造1階建）	229㎡
	他（更衣室等）	214㎡

【練習場を整備した経緯について】

平成6年に神戸にJリーグのプロサッカーチームを誕生させるため、「神戸にプロサッカーチームをつくる市民の会」とともに岡山県の川崎製鉄（株）サッカー部を誘致し、運営会社（株）オレンジサッカークラブ（翌年には（株）ヴィッセル神戸に社名変更）を設立、市から出資と職員の派遣を行い、市の外郭団体の位置付けとなった。神戸にて「ヴィッセル神戸」として活動するにあたり、不可欠となる練習場の整備を平成7年に行なった。

当初（旧いぶきの森球技場）は市が造成した産業団地（神戸サイエンスパーク内）に、天然芝グラウンド2面とクラブハウスを整備。平成16～18年にかけて、現いぶきの森球技場を整備（天然芝2面、人工芝1面、クラブハウス）し、移転。

【練習場整備費用について】

整備費用の合計は6億5千8百万円で、内訳は以下の通りである。

出資者	
神戸市	3億1千5百万円
JAWOC補助	1億2千6百万円
(株) クリムゾンフットボールクラブ	2億1千7百万円
計	6億5千8百万円

支出（概数）	
天然芝グラウンドA	1億円
天然芝グラウンドC	1億3千万円
人工芝グラウンドB	1億6千万円
クラブハウス	2億2千万円
夜間照明	3千8百万円

【維持管理経費について】

球技場の位置付けは普通財産で賃貸借契約により貸付を実施し、日常的な維持管理は楽天ヴィッセル神戸（株）が行なっている。ただし、練習場は一般開放も行なっているため、それに伴う経費を市で負担している。

維持管理経費（平成30年度）	
賃借料	920万円
一般開放に係る委託料	1千8百万円

【随意契約の理由について】

ホームタウンとしてのヴィッセル神戸への練習場提供という役割に加えて、楽天ヴィッセル神戸（株）への賃貸によりヴィッセル神戸や県サッカー協会等を通じて、青少年のサッカー振興や大会利用等に有効活用できるとともに、市民スポーツの育成・振興に寄与するため。

【地域との交流について】

平成29年度は練習の一般公開・練習後の選手との交流や夏祭りの開催など、地域との交流事業、活性化事業に取り組んだ。ただし、イニエスタ選手入団後、ファンが殺到し、練習に支障が出るとの理由もあり、平成30年7月以降は練習の一般公開についてはノエビアスタジアムにて実施している。

【市民の利用について】

土・日を中心に、半日単位で年間100コマ以上を市民利用としている。また、主に兵庫県サッカー協会の試合や講習会等にて市民利用がなされているほか、全国高校女子サッカー選手権等の会場として活用している。

2) 所感等

本市の横浜・F・マリノスの練習場誘致に伴い、他都市の事例を参考にすべく神戸市の話伺った。ヴィッセル神戸は神戸の名前を冠するクラブチームであり、もともと本市の状況とは違うところではあるが、経費面での話は参考になった。印象に残ったのは一般公開についてである。街としてクラブチームを歓迎する雰囲気を作ることはもちろんのことだが、練習の一般公開などクラブチーム側の協力を仰がなければ実現できない部分は、クラブチーム練習場誘致において大きな要素を占めている。イニエスタ選手移籍で「いぶきの森」での練習の一般公開が行われなくなったことは注目に値する。もともと契約上、一般公開を行う旨の項目があるにも関わらず、状況によって一般公開を断念せざるを得ない状況が生まれる可能性があるということである。クラブチームの練習場誘致については、本市として熱く迎えることは当然のこととして、大きな観光資源として見込むことはできないのではないか。練習場があることが街のイメージや魅力向上に寄与することはいいとして、一般公開などの人を呼ぶ施設としての観光資源的見方については過度な期待はすべきではないと感じた。